













オレゴンの熟練生産者たちのもとでノウハウを学び、ケリー・フォックスは2007年にワイナリーを設立した。2005年から2015年まではスコット・ポール・ワインズで醸造長として働いていたが、2016VTからは、自身のワイナリーに専念する。また、特に影響を受けたのはジ・アイリー・ヴィンヤードの故デイヴィッド・レット氏だと、ケリーは話す。2018VTからは、彼女にとっての特別な入れの深い、ダンディー・ヒルズのマーシュと呼ばれる区域の畑に注力しており、ワイナリーもより、仕事のしやすい場所へと移った。大学で生物学と生化学を学んだケリーだが、何ごととも決まりきった慣習通りには行わず、栽培でも過度の凝縮感はお求めず、醸造では舌と感覚を頼りに判断をする。エレガントなワインができやすいと言われる、ダンディー・ヒルズではあるが、ケリーの手にかかるとピノ・ノワールは、ひときわ伸びやかで、優雅なワインへと生まれかわる。

|      |  |
|------|--|
| 2021 | 冬の降水量は平年並みだったが、気温は低く春まで乾燥していた。5月中旬に気温が1℃まで下がり雹が降る暴風雨があった。6月も何回か暴風雨があり、その後異常熱波で43℃を超える日が数日続き日の長さも相まって多くの作物が被害を受けたが幸運にもブドウへの被害はほぼなかった。総じてアロマが素晴らしい生き生きしたワインができた。         |
| 2020 | 冬から春は全体的に平均より暖かかった。7月はここ10年で一番涼しい気温で始まり、曇りや雨の日が続いた。ブドウは実が非常に小さく結実不良も多かった。収量は1エーカー当たり1t程と少なかったが、ブドウの品質は全てが調和し完璧だった。9月の記録的熱波により、沿岸部まであちこちで山火事が起こった。畑への影響を考慮し赤ワインは造らなかった。 |
| 2019 | これまでより彼女の思う「オレゴンワイン」に近い年。6月後半から7月にかけて記録的な大雨が降り、ウドンコ病が大流行した為、間引きを余儀なくされた。それにより収量は減ったが、果実はゆっくり味を深められ、最終的に味わいもバランスも美しく仕上がった。  |
| 2018 | 冬は春のような気候だった。春後半には日差しが照り付け25℃~28℃くらいの気温の日が続いた。雨も例年より少なかった。7月も日中はとても暑かったが、夜は乾燥して気温が低く、この寒暖差が味わいの発展と良質な酸をもたらした。昨年のグリーンで繊細な味わいに対し、より凝縮感のある仕上がりが。                          |
| 2017 | 2011年以来続いた猛暑からついに解放された年。冬の降雨・積雪量は平均の150%と素晴らしい状態で、春は比較的湿度が高く涼しかった。8月前半の2週間は猛暑が続いたが、雨によって落ち着き、果実の色づきが促された。収穫はほとんどが10月に入ってから。全房発酵は50%まで落とし、エレガントで香り高い古典的なオレゴンピノができた。     |
| 2016 | 2016は栽培初期に異常な暑さとなった。過去2年と異なり不安定に天気変動した。乾燥した冬を経て、春先から強い日差しとともに気温が上昇した。8月の暑さは昨年同月の記録を塗り替えた。収穫は通常より約3週間早めた。マーシュの収量は平均よりかなり少なかった。果実はここ数年で最も小さかったが、アロマと凝縮感は近年では一番だった。       |
| 2015 | 2014に続き異常に暑い年となった。暖かい冬に始まり夏まで暑かったが、珍しい8月の通り雨が暑さを和らげた。例年より2週間早く発芽し、マーシュではそのまま驚きの速さで生育が進み、豊かな収量だった。モンタジでは前年とほぼ同程度の収量にとどまった。総じて果実の出来は良く、100%全房発酵にした。                      |

|  |   |  |    |    |  |
|--|---|--|----|----|--|
|  | <p align="center">○Willamette Blanc<br/>ウィラメット・ブラン</p>      |  |    | 備考 | <p>大規模な山火事の煙によりブドウが燻されたので、赤ワインを醸造しなかった年。煙の香りがつかないように、ピノ・ノワールを白ワイン醸造した。通常のケリー・フォックスの味筋ではないが、煙にまみれたピノ・ノワールを何とかワインとして世に出そうとした苦心の作品。エチケットには不死鳥の絵があしらわれている。</p> |
|  | 畑   | <p>品種：ピノ・ノワール70%、シャルドネ30%</p> <p>植樹：1983年（ピノ・ノワール・自根）、1991年、2011年、2018年（シャルドネ）</p> <p>位置：標高120~140m、東向き</p> <p>土壌：レッド・ジョリー中心、シャルドネは一部古代海洋性土壌</p> | 醸造 |    |  |
|  | <p align="center">○Nerthus<br/>ネルトゥス</p>                    |  |    | 備考 | <p>ネルトゥスとは豊稔を司る古代の女神のこと。ラベルはネルトゥスをイメージしケリーの娘ヴァイオレットがデザインした。</p>  |
|  | 畑   | <p>品種：グリューナー・ヴェルトリーナー60%、アーリー・マスカット40%</p> <p>植樹：2006年頃</p> <p>位置：標高137~153m、南向き</p>   | 醸造 |    |  |
|  | <p align="center">○Grüner Veltliner<br/>グリューナー・ヴェルトリーナー</p> |  |    | 備考 | <p>元々ネルトゥスに混ぜていたグリューナー・ヴェルトリーナーだが、味わいが良いため単一品種で醸造をした。</p>  |
|  | 畑   | <p>品種：グリューナー・ヴェルトリーナー100%</p> <p>植樹：2006年</p> <p>位置：標高137~153m、南向き</p> <p>土壌：古代海洋性土壌</p>   | 醸造 |    |  |

|  |  |   |    |    |   |
|--|--|---|----|----|---|
| <br>Kelley Fox Wines<br>2018<br>DURANT VINEYARD CHARDONNAY<br>LARK BLOCK<br>DUNDEE HILLS, OREGON    | <b>○Durant Vineyard Chardonnay - Lark Block</b><br>デュラン・ヴィンヤード・シャルドネ ラーク・ブロック          |   |    | 備考 | アンフォラ型コンクリートタンクについて、ケリーは「子宮型」Uterine-shapedと呼んでいる。卵型ではなく、上部の径が大きく、下にむかってすぼまる形のため。   |
|  | 畑  | 品種：シャルドネ100%（内96%がディジョンのクローン）<br>植樹：1991年<br>位置：標高250~300m、東向きの斜面<br>土壌：古代海洋性土壌 | 醸造 |    |   |
| <br>Kelley Fox Wines<br>OLD VINE WHITE RIESLING<br>MARESH VINEYARD<br>DUNDEE HILLS, OREGON          | <b>○Maresh Vineyard - Old Vine White Riesling</b><br>マーシュ・ヴィンヤード オールド・ヴァイン・ホワイト・リースリング |   |    | 備考 | ケリーが80年代にオレゴンに越してきたとき、オレゴン産リースリングはとも人気が高く、ケリーもよく森の中でフクロウの鳴き声を聴きながら楽しんでたという。そのころ飲んでいたワインを再現しようと試みたワイン。                     |
|  | 畑  | 品種：リースリング100%<br>植樹：1970年<br>位置：標高137m<br>土壌：レッド・ジョリー                           | 醸造 |    |   |
| <br>Kelley Fox Wines  | <b>●Ahurani</b><br>アフラニ  |   |    | 備考 | ヴィツェル・ディクソンヴィル（Witzel-Dixonville）と呼ばれる土壌。森に囲まれたモンタジの区画の畑から出来上がる、ケリーの造るワインの中でも比較的ボディのあるワイン。                                |
|  | 畑  | 品種：ピノ・ノワール100%<br>植樹：1999年<br>位置：標高150~180m、南・南東向き<br>土壌：レッド・ジョリー、玄武岩           | 醸造 |    |   |
| <br>Kelley Fox Wines   | <b>●Mirabai</b><br>ミラバイ  |   |    | 備考 | レッド・ジョリーと称される、酸化鉄で赤味を帯びた火山性土壌は、シルトと粘土、ローム質が混じっている。火山性土壌でフィロキサラがないので、全て自根。   |
|  | 畑  | 品種：ピノ・ノワール100%<br>植樹：1970~1991年<br>位置：標高122m、南・南東向き<br>土壌：レッド・ジョリー              | 醸造 |    |   |
| <br>Kelley Fox Wines<br>2017<br>HYLAND VINEYARD PINOT NOIR<br>COURTY CLONE<br>McMINNVILLE, OREGON | <b>●Hyland Vineyard Pinot Noir - Courty Clone</b><br>ハイランド・ヴィンヤード・ピノ・ノワール コーリークローン     |   |    | 備考 | 濃い赤色をしているが、透明感はある色合い。涼しさを伴った、赤い果実味と、ハイランドの典型的な酸味が特徴。レッド・ジョリーと称される、酸化鉄で赤味を帯びた火山性土壌は、シルトと粘土、ローム質が混じっている。                    |
|  | 畑  | 品種：ピノ・ノワール100%<br>植樹：1988年（自根）<br>位置：標高183m、北・西向き<br>土壌：レッド・ジョリー                | 醸造 |    |   |
| <br>Kelley Fox Wines<br>2017<br>MONTAZI VINEYARD PINOT NOIR<br>McMINNVILLE, OREGON                | <b>●Momtazi Vineyard Pinot Noir</b><br>モンタジ・ヴィンヤード・ピノ・ノワール                             |   |    | 備考 | ヴィツェル・ディクソンヴィル（Witzel-Dixonville）と呼ばれる土壌。プレスした果汁は使用しない。   |
|  | 畑  | 品種：ピノ・ノワール100%<br>植樹：1999年<br>位置：標高150~180m、南東向き<br>土壌：レッド・ジョリー、玄武岩             | 醸造 |    |   |
| <br>Kelley Fox Wines<br>2017<br>MONTAZI VINEYARD PINOT NOIR<br>"TIR"<br>McMINNVILLE, OREGON       | <b>●Momtazi Vineyard - Pinot Noir "Tir"</b><br>モンタジ・ヴィンヤード・ピノ・ノワール "ティル"               |   |    | 備考 | "Tir"はペルシャ語で星を意味し、現代アラビア語では「弓矢」の意。レッド・ジョリーと称される、酸化鉄で赤味を帯びた火山性土壌は、シルトと粘土、ローム質が混じっている。火山性土壌でフィロキサラがないので、全て自根。プレスした果汁は使用しない。 |
|  | 畑  | 品種：ピノ・ノワール100%<br>植樹：2003年（複数のクローンの混植）<br>位置：標高150~180m、南東向き<br>土壌：レッド・ジョリー、玄武岩 | 醸造 |    |   |

|   |  |  |    |  |
|---|--|--|----|--|
|  <p>Kelley Fox Wines</p> <p>2018</p> <p>MARESH VINEYARD PINOT NOIR<br/>DUNDEE HILLS, OREGON</p>                                    | <p align="center"><b>●Maresh Vineyard Pinot Noir</b><br/>マーシュ・ヴィンヤード・ピノ・ノワール</p>   |  | 備考 | <p>レッド・ジョリーと称される、酸化鉄で赤味を帯びた火山性土壌は、シルトと粘土、ローム質が混じっている。火山性土壌でフィロキサラがないので、全て自根。<br/>プレスした果汁は使用しない。</p>  |
| 畑   | <p>品種：ピノ・ノワール100%<br/>植樹：1970年<br/>位置：標高122m、南・南東向き<br/>土壌：レッド・ジョリー</p>  | <p>醸造<br/>合成樹脂容器に30%全房で14~18日間マセレーション<br/>ブルゴーニュ樽（228L）で10か月間熟成<br/>新樽は使用しない</p> |    |  |
|  <p>Kelley Fox Wines</p> <p>2018</p> <p>MARESH VINEYARD PINOT NOIR<br/>LIMINAL<br/>DUNDEE HILLS, OREGON</p>                        | <p align="center"><b>●Maresh Vineyard Pinot Noir - Liminal</b><br/>マーシュ・ヴィンヤード・ピノ・ノワール リミナル</p>  |  | 備考 | <p>マーシュヴィンヤードの中でもさらに区画を限定しているLiminal。この区画のエネルギーをより的確に表現するために「リミナル」という名前を付けた。この区画は黒クールの木立と隣り合っている。<br/>レッド・ジョリーと称される、酸化鉄で赤味を帯びた火山性土壌は、シルトと粘土、ローム質が混じっている。</p> |
| 畑   | <p>品種：ピノ・ノワール100%<br/>植樹：1970年（自根）<br/>位置：標高137~153m、南向き<br/>土壌：レッド・ジョリー</p>   | <p>醸造<br/>合成樹脂容器に30%全房で14~18日間マセレーション<br/>ブルゴーニュ樽（228L）で10か月間熟成<br/>新樽は使用しない</p> |    |  |
|  <p>Kelley Fox Wines</p> <p>2021</p> <p>MARESH VINEYARD PINOT NOIR<br/>STAR-OF-BETHLEHEM FLOWER BLOCK<br/>DUNDEE HILLS, OREGON</p> | <p align="center"><b>●Maresh Vineyard Pinot Noir - Star of Bethlehem Flower Block</b><br/>マーシュ・ヴィンヤード・ピノ・ノワール<br/>スター・オブ・ベツレヘム・フラワー・ブロック</p> |  | 備考 | <p>スター・オブ・ベツレヘム・フラワーは、南欧や南アフリカにみられる草花の名前。細長く白い花びらが、星のように見えることに由来。<br/>レッド・ジョリーと称される、酸化鉄で赤味を帯びた火山性土壌は、シルトと粘土、ローム質が混じっている。</p>                                 |
| 畑   | <p>品種：ピノ・ノワール100%<br/>植樹：1991年<br/>位置：標高120m、南向き<br/>土壌：レッド・ジョリー</p>   | <p>醸造<br/>合成樹脂容器に50%全房で約18日間マセレーション<br/>ブルゴーニュ樽（228L）で9か月間熟成<br/>新樽は使用しない</p>    |    |  |
|  <p>Kelley Fox Wines</p> <p>2018</p> <p>MARESH VINEYARD PINOT NOIR<br/>RED BARN BLOCKS<br/>DUNDEE HILLS, OREGON</p>              | <p align="center"><b>●Maresh Vineyard Pinot Noir - Red Barn Blocks</b><br/>マーシュ・ヴィンヤード・ピノ・ノワール レッド・バーン・ブロックス</p>                             |  | 備考 | <p>レッド・バーンは赤い納屋の意味。スコット・ポール・ワイナリーでワインメーカーとして働いていた時から10年以上、この区画とかかわってきたが、2018VTが最後の醸造となる。<br/>レッド・ジョリーと称される、酸化鉄で赤味を帯びた火山性土壌は、シルトと粘土、ローム質が混じっている。</p>          |
| 畑   | <p>品種：ピノ・ノワール100%<br/>植樹：1970、1978年<br/>位置：標高120m、南向き<br/>土壌：レッド・ジョリー</p>  | <p>醸造<br/>合成樹脂容器に50%全房で約17日間マセレーション<br/>ブルゴーニュ樽（228L）で10か月間熟成<br/>新樽は使用しない</p>   |    |  |
|  <p>Kelley Fox Wines</p> <p>2018</p> <p>MARESH VINEYARD PINOT NOIR<br/>ROYAL ANN BLOCK<br/>DUNDEE HILLS, OREGON</p>              | <p align="center"><b>●Maresh Vineyard Pinot Noir - Royal Ann Block</b><br/>マーシュ・ヴィンヤード・ピノ・ノワール ロイヤル・アン・ブロック</p>                              |  | 備考 | <p>ロイヤル・アンは、ブドウ畑にある樹齢100年のサクランポの木の品種名。<br/>レッド・ジョリーと称される、酸化鉄で赤味を帯びた火山性土壌は、シルトと粘土、ローム質が混じっている。</p>  |
| 畑   | <p>品種：ピノ・ノワール100%<br/>植樹：1988年（自根）<br/>位置：標高152~213m、南向き<br/>土壌：レッド・ジョリー</p>   | <p>醸造<br/>合成樹脂容器に約50%全房で約18日間マセレーション<br/>ブルゴーニュ樽（228L）で10か月間熟成<br/>新樽は使用しない</p>  |    |  |
|  <p>Kelley Fox Wines</p> <p>2018</p> <p>WEBER VINEYARD PINOT NOIR<br/>DUNDEE HILLS, OREGON</p>                                   | <p align="center"><b>●Weber Vineyard Pinot Noir</b><br/>ウェーバー・ヴィンヤード・ピノ・ノワール</p>   |  | 備考 | <p>ウェーバー家が1978年に、初めて植樹したブドウ畑。マーシュー家とも仲の良い、ウェーバーが管理する畑で、ケリーにとっても、最も信頼のできる栽培家の一人。<br/>レッド・ジョリーと称される、酸化鉄で赤味を帯びた火山性土壌は、シルトと粘土、ローム質が混じっている。</p>                   |
| 畑   | <p>品種：ピノ・ノワール100%<br/>植樹：1983、1987年（自根のポマー<br/>ル・クローン）<br/>位置：標高152m、東・南東向き<br/>土壌：レッド・ジョリー</p>  | <p>醸造<br/>合成樹脂容器に50%全房で約16日間マセレーション<br/>ブルゴーニュ樽（228L）で11か月間熟成<br/>新樽は使用しない</p>   |    |  |

|  |   |   |  |  |
|--|---|---|--|--|
| <br><i>Kelley Fox Wines</i><br>CANARY HILL VINEYARD<br>PINOT NOIR<br>EOLA-AMITY HILLS | <b>●Canary Hill Vineyard Pinot Noir</b><br>キャンナリー・ヒル・ヴィンヤード・ピノ・ノワール |   |  | 備考<br>ヴィンヤード名は周辺を飛び回っている黄色い鳥にちなんでつけられた。(正確にはその鳥はカナリアではない。) |
|  | 畑   | 品種：ピノ・ノワール100%<br>植樹：1995年（自根のポマール・クローン）<br>位置：標高137~168m、東向き<br>土壌：レッド・ジョリー、ネキア（より石が多い火山性土壌） | 醸造<br>合成樹脂容器で約14~18日間マセレーション<br>ブルゴーニュ樽（228L）で10か月間熟成<br>新樽は使用しない      |  |
| <br><i>Kelley Fox Wines</i><br>CARTER VINEYARD<br>PINOT NOIR<br>EOLA-AMITY HILLS      | <b>●Carter Vineyard Pinot Noir</b><br>カーター・ヴィンヤード・ピノ・ノワール           |   |  | 備考<br>ケリーはこのヴィンヤードで2019VTからワインを造り始めた。                      |
|  | 畑   | 品種：ピノ・ノワール100%<br>植樹：1983年（自根）<br>位置：標高100m、南向き<br>土壌：レッド・ジョリー、ネキア（より石が多い火山性土壌）               | 醸造<br>合成樹脂容器に全房30%で15~19日間マセレーション<br>ブルゴーニュ樽（228L）で10か月間熟成<br>新樽は使用しない |  |